

5 環境・社会基盤

7分野のうち、自然環境や都市空間、道路、上・下水道といったインフラ等を、魅力的なもの、質の高いものとするにより、基本構想に掲げる将来都市像や基本的な目標（重点目標）の達成を目指します。

将来都市像に掲げる、先進住環境都市の実現に向け、市内外からの評価が高まり、持続可能なまちとして未来にもつながる取組が求められることから、「未来の子どもに引き継ぐ住環境づくり」や「良好な住環境の基となる社会基盤の形成・維持」を重視した取組に注力します。

また、都市の基礎的なインフラである適切な排水や水道水の安定的な供給は、安全・快適な住環境の前提であることを踏まえ、引き続き着実に運営・推進します。

(1) この分野で将来目指すべき方向性

★未来の子どもに引き継ぐ住環境をつくる

本市は、大都市圏にありながら緑が多く、手賀沼等水辺環境にも囲まれていることが特徴であり、強み・魅力でもあることから、これら豊かな自然環境を未来にわたって守っていくことが必要です。

また、昨今のゲリラ豪雨や猛暑の原因は地球温暖化にあるとされており、省エネルギー等環境を意識したライフスタイルの確立や都市基盤整備と一体となった再生エネルギーの創出等、様々な環境配慮型の都市基盤整備を通じて持続可能な社会を目指し、これらを踏まえて良好な住環境を形成することで、まちの魅力を高めます。

★良好な住環境の基となる社会基盤を形成・維持する

基本的な目標（重点目標）の実現には、安全・安心で元気に遊べる空間や、コミュニティの幅広い世代が集う場を充実させることで、都市としての魅力を高めることが求められます。

併せて、これら集う場へのアクセスをはじめとした、子育て中の親子や高齢者にとっての移動しやすさを確保し、都市の利便性・快適性を高めます。具体的には、バリアフリー⁹⁷な住環境づくりや、公共交通の利便性向上をはじめとする安全・円滑な交通環境づくりに取り組みます。

また、空家や空き地は、住環境の安全性や快適性を脅かす全国的な課題となっており、必要な措置を図りながら、現況の把握・分析や利活用の調査・研究を進めます。

97 【バリアフリー】生活において、物理的・心理的な障害となるものや、情報の障壁等を取り除くこと

(2) 目標達成に向けた主な実施手段の体系

(1)に掲げた全体的な方向性を踏まえ、基本構想に掲げる将来都市像や基本的な目標（重点目標）の達成に向けた実現手段として、具体的には次のような施策・取組・事業に注力していきます。体系図中、特に重点的に取り組むものを濃色にしています。

図表50 目標達成に向けた主な実施手段の体系（環境・社会基盤）

目指す方向性	施策	取組	事業
★未来の子どもに引き継ぐ住環境をつくる ★良好な住環境の基となる社会基盤を形成・維持する	5-1. 豊かな自然環境づくり	1 緑や水辺空間の保全	1 緑を守る新たな方策の推進
			2 良好な樹林地等の保全
			3 水辺空間や湧水の保全
			4 生物多様性の保全と復元
			5 環境保全活動の育成・啓発
			6 緑豊かな街並みづくりの誘導
	5-2. 環境負荷の低減	1 低炭素化の推進	1 省エネルギーの推進
			2 再生可能エネルギーの普及促進
			3 壁面・屋上緑化やヒートアイランド ⁹⁸ 対策の推進
			4 公共施設の低炭素化
			5 低公害車の普及
		2 大気・水質・土壌等汚染の防止	1 環境・大気・水質・土壌等の監視及び事業者に対する指導
			2 産業廃棄物の不法投棄の監視
		3 適正なごみ処理の維持・改善	1 清掃施設の老朽化対策
			2 焼却灰等の最終処分場の安定的な確保
			3 清掃施設周辺整備等の推進
	4 ごみ（一般廃棄物）の排出抑制	1 3R ⁹⁹ の推進	
	5-3. 魅力あふれる都市空間の創出	1 緑があり人が集まるオープン空間の充実化	1 ニーズや地域特性に応じた公園機能の見直し
			2 低未利用地の活用推進
3 立体都市公園の検討			
2 快適で安全な住環境の整備		1 安全に歩ける空間の拡充	
		2 計画的な市街地整備の推進	
		3 空家・空き地の適正管理及び活用	
3 暮らしやすい景観を生かした都市空間づくり	1 都市再生推進法人や景観整備機構との連携		
	2 良好な景観形成の普及・啓発		
	3 景観重点地区・景観協定の導入		
	4 屋外広告物の是正指導		
5-4. 安全・円滑な交通環境の確保	1 公共交通の利便性向上	1 鉄道の利便性向上	
		2 バス交通等の利便性向上	
		3 タクシーの利便性向上	
		4 ITS（高度道路交通システム）の利活用	
	2 自転車利用環境の向上	1 自転車通行環境の整備	
		2 駐輪場の充実化と放置自転車対策の強化	
	3 道路網の構築	1 道路交通ネットワークの整備促進	
2 既設道路の改良			
4 道路の適正な維持管理	1 道路の計画的な修繕		
	2 橋梁の耐震化及び長寿命化		
	5 交通安全の推進		
1 交通ルール・マナーの啓発強化	1 交通ルール・マナーの啓発強化		
	2 交通安全教育の充実化		
5-5. 排水対策の推進	1 汚水対策の推進	1 下水道未普及地区の解消	
		2 下水道の分流化対策	
		3 水洗普及の促進	
		4 1市2制度 ² 施設によるし尿処理体制の見直し	
	2 雨水対策の推進	1 雨水浸水被害の解消	
		2 雨水排水の機能強化	
3 下水道経営基盤の強化	1 使用料の適正化		
	2 収納率の向上		
	3 下水道施設老朽化対策の推進		
5-6. 安定した水道水の供給	1 水道施設の計画的な整備・更新	1 老朽管の更新	
		2 老朽設備の維持・更新	
		3 管路の耐震化	
		4 水源地施設の耐震化	
		5 新設基幹管路の整備・拡充	
2 安全で安定した水の確保	1 水源井戸の適正な維持管理の実施		
	2 地下水利用の適正化		

98 【ヒートアイランド】都市の中心部の気温が郊外に比べて島状に高くなる現象のこと。熱中症等の健康への被害や、生態系の変化が懸念されている

99 【3R】リデュース（Reduce:ごみの発生抑制）・リユース（Reuse:使用済み製品の再利用）・リサイクル（Recycle:再生利用）のこと。リデュースが最も優先的な取組と位置付けられている

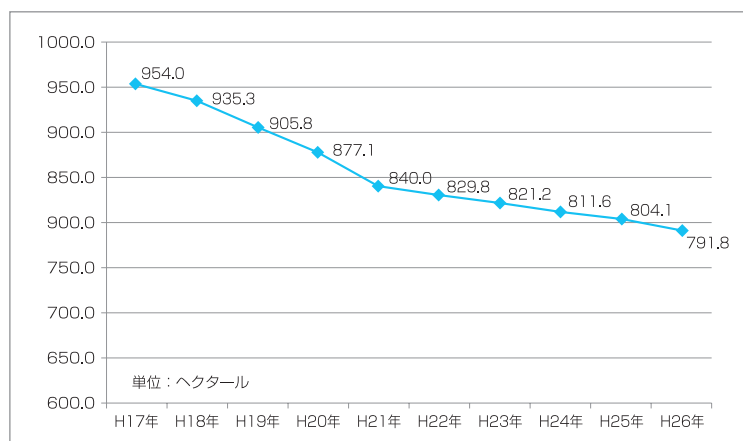
第1章
第2章 未来
第2章 サポート
第2章 経済
第2章 地域
第2章 環境
第2章 安全
第2章 マネジメント
第3章

施策 5-1 豊かな自然環境づくり

◎ 当該施策の現状分析（課題把握）

- 宅地造成等の開発に伴い、農地や樹林地は年々減少し続けています。また、現在残されている緑地や水辺、谷津¹⁰⁰等の自然空間も、管理者の高齢化等の要因により、管理の手が入らなくなり荒廃地化していく例が数多く見受けられます。そしてこれらが、建設残土処理場として姿を変えていく実態が顕著になっています。
- また、これら地域の自然環境を形成する山林や、湖沼、河川、湧水等の水辺の環境は、気候変動や人為的要因により変化していて、地域の水循環機能の低下や生物生息空間の減少による生物多様性の確保に危機をもたらしています。
- 現状のままであると、さらなる緑地の減少や残された緑の減少による景観の悪化が進み、さらには生活環境自体の悪化、災害対応力の低下につながります。これらの緑地、水辺空間等の自然環境をいかに良好な状態で保全していくかが大きな課題となっています。
- 地域のシンボリックな存在である手賀沼の水質は、昭和54年度のCOD¹⁰¹平均値28mg/lをピークに、下水道整備や北千葉導水事業¹⁰²等により水質の改善が図られたものの、近年は10mg/l前後と環境基準を超えており、今後とも国・県・流域市が一体となり浄化対策を進める必要があります。

図表5-1 柏市山林全体面積の推移（資料）都市計画課



100 【谷津】台地に河川の浸食で谷が刻まれ、海進による堆積、海退による陸地化で生じた平らな谷底を持つ浅い谷地形

101 【COD】化学的酸素要求量の略。主として、有機物を酸化するときに消費される酸化剤の量を酸素の量に換算したもので、湖沼における有機物による水質汚濁の指標となっている

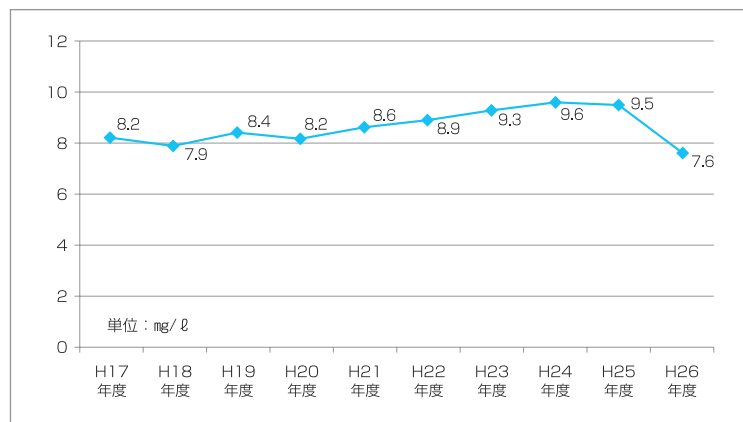
102 【北千葉導水事業】市内河川の坂川、手賀沼流域の洪水の軽減、水質浄化、都市用水の導水を目的とする事業。平成12年に事業が開始され、利根川から手賀沼への注水により、手賀沼の水質改善に貢献している

図表52 柏市で確認されたレッドリストに掲載のある種 (資料)環境政策課

動物			植物		
鳥類	チュウサギ	両生類	トウキョウダルマガエル	タコノアシ	マイヅルテンナンショウ
	コシゴイ		アカハライモリ	スズサイコ	ミクリ
	タカブシギ	魚類	ドジョウ	ハナムグラ	ジョウロウスゲ
	ハマシギ		メダカ	ミゾコウジュ	エビネ
	オオタカ	昆虫類	コオイムシ	カワヂシャ	キンラン
	ザシバ		ミズスマシ	バアソブ	タシロラン
	ハイタカ	貝類	マルタニシ	ホンバオグルマ	マヤラン
	ミサゴ		モノアラガイ	ヒメコヌカグサ	
	ハヤブサ				
	マガン				
	コアジサシ				

レッドリスト…環境省の定める絶滅のおそれのある野生生物種及び生息状況によっては絶滅のおそれのある野生生物種に移行する可能性のある種

図表53 手賀沼の水質(COD値年平均)の推移 (資料)環境政策課



🌀 施策の実現によって目指す市の姿 (施策の方針)

多くの市民が自然環境に関心を持ち、保全活動が活発に行われています。こうした努力により、市街地にはとところどころにまとまった樹林地が残り、谷津等の良好な自然の景観や手賀沼等の水辺空間等、身近なところで心潤す自然空間に接することができる等、豊かな美しい自然があるまちとなっています。

● 施策実現のため、重点的に推進する取組

1 緑や水辺空間の保全

取組内容	身近にある豊かな自然や生態系を将来世代に残すため、緑や水辺、生物の保全や環境保全活動の推進に取り組みます。
重点事業 (実現手段)	1 緑を守る新たな方策の推進 (114ページ) 2 良好な樹林地等の保全 (115ページ) 3 水辺空間や湧水の保全 (115ページ)

● その他の取組
※無し

● 関連する部門計画

計画名	関連する取組
柏市環境基本計画	1
第二期柏市地球温暖化対策計画	1
柏市生きもの多様性プラン	1
柏市緑の基本計画	1

● 進捗を測る指標

取組	指標	基準値	目指す方向性	備考
1	持続性のある緑の確保量	29.3% (約3,369ha)・ 平成26年度末現在	↗	

🌱 取組1の重点事業の概要

1 緑を守る新たな方策の推進

担当課	環境政策課					
事業内容	多様な生態系を有する谷津の自然を将来世代に残すため、保全方針に基づき、生きもの多様性重要地区 ¹⁰³ 候補地をはじめとした守るべき谷津田 ¹⁰⁴ の地権者と保全協定を結びます。また、耕作放棄地でも保全すべき自然環境要件を備えた谷津田は、地権者の同意を前提に体験農園やカシニワ制度 ¹⁰⁵ を活用し、農地復元やビオトープ ¹⁰⁶ 化を目指します。これらの保全策と併せて、土地利用規制等についても検討します。					
5年間のロードマップ	活動内容	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度
	新たな保全策に基づく谷津の保全・休耕地の活用・復元	制度設計・運用開始	制度運用・周知	制度運用・周知	制度運用・周知	制度運用・周知
備考						

103 【生きもの多様性重要地区】 柏市生きもの多様性プランにおいて、生きもの多様性の保全・再生に重要な地区として指定された地区のこと
 104 【谷津田】 谷津の谷底部の水田部分
 105 【カシニワ制度】 地域共有の緑を増やし、柏をひとつの大きな庭にすることを旨として創設された制度
 106 【ビオトープ】 多様な、または貴重な野生生物が息息・生育する空間であり、その状態を保持または目指して管理される場所

2 良好な樹林地等の保全

担当課	公園緑政課，環境政策課					
事業内容	自然を身近に感じることができる良好な住環境を作るため，法制度の活用や市民協働による市街地の樹林地の保全を進めます。					
5年間のロードマップ	活動内容	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度
	保全候補地の洗い出し	樹林地等400ha分	樹林地等400ha分			
	優先度評価			評価実施	評価実施	
	新規指定の推進					保全制度検討
備考						

3 水辺空間や湧水の保全

担当課	環境政策課					
事業内容	将来に残すべき豊かな生態系の源となる水辺空間や湧水等の水に関する環境を守るため，各種調査・保全活動や市民への啓発活動を行います。					
5年間のロードマップ	活動内容	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度
	新たな保全策に基づく谷津の保全・休耕地の活用・復元	制度設計・運用開始	制度運用・周知	制度運用・周知	制度運用・周知	制度運用・周知
	名戸ヶ谷ビオトープ木道改修工事	工事	工事			
	名戸ヶ谷ビオトープ等の管理運営	観察会2回，生態調査2回	観察会2回，生態調査2回	観察会2回，生態調査2回	観察会2回，生態調査2回	観察会2回，生態調査2回
	湧水調査	調査12ヶ所	調査12ヶ所	調査12ヶ所	調査12ヶ所	調査12ヶ所
	水循環に関する方針・施策の検討	検討	検討	検討	検討	検討
	合併処理浄化槽 ¹⁰⁷ 普及補助	27件	27件	27件	27件	27件
	手賀沼船上見学	80回	80回	80回	80回	80回
備考						

107 【合併処理浄化槽】し尿及び生活雑排水を戸別にまとめて処理する設備

施策 5-2 環境負荷の低減

◎ 当該施策の現状分析（課題把握）

- 本市は、全国市町村で2番目に地球温暖化対策条例を制定し、国からは環境未来都市として選定される等、先進的な取組を進める環境意識の高いまちとなっています。
- 近年は、地球温暖化による気候変動を起因とされる夏季の猛暑日の増加やゲリラ豪雨等が頻発しています。この地球温暖化の進行は、産業革命以来のCO₂に代表される温室効果ガスの排出が原因であることを、IPCC（気候変動に関する政府間パネル）¹⁰⁸等により指摘されています。
- 柏市における温室効果ガス排出量は、当初の京都議定書¹⁰⁹の基準年である平成2年と平成20～24年における5年間の平均値を比較すると、約0.05%減少しています。民生（家庭・業務）部門における増加が著しく、これらの省エネルギー対策を進めていくことが重要です。
- 大気では、光化学スモッグ¹¹⁰、PM2.5¹¹¹、アスベスト¹¹²対策等、水質では、揮発性有機化合物¹¹³等の地下水汚染や土壌の汚染の対策のほか、本市の重要な環境資源である手賀沼の水質改善が課題となっています。特に土壌汚染対策は、産業構造の変化のなかで製造業の撤退が今後も加速することが予想されるため、それに対応する体制整備を進める必要があります。
- 市民生活の基盤であるごみ処理のための清掃施設の老朽化が進んでいます。
- パソコンや携帯端末の普及等、電子コンテンツの拡充によるペーパーレス化やスラグ¹¹⁴のリサイクルが進まないこと等から、総資源化率は減少傾向になっており、近年では25%前後で推移しています。

108 【IPCC（気候変動に関する政府間パネル）】 地球温暖化についての科学的な研究成果・データの収集をするため、昭和63年に世界気象機関と国連環境計画により設立された組織

109 【京都議定書】 平成9年に京都で開催された第3回国連気候変動枠組条約締約国会議（COP3）にて採択された地球温暖化防止に対する議定書のこと

110 【光化学スモッグ】 紫外線によって、工場や自動車の排ガスに含まれる窒素酸化物等の物質が、高濃度の光化学オキシダント(オゾン等の化学物質)になったもの。濃度が高いと、目や喉等の粘膜を刺激し、健康被害が発生する場合がある

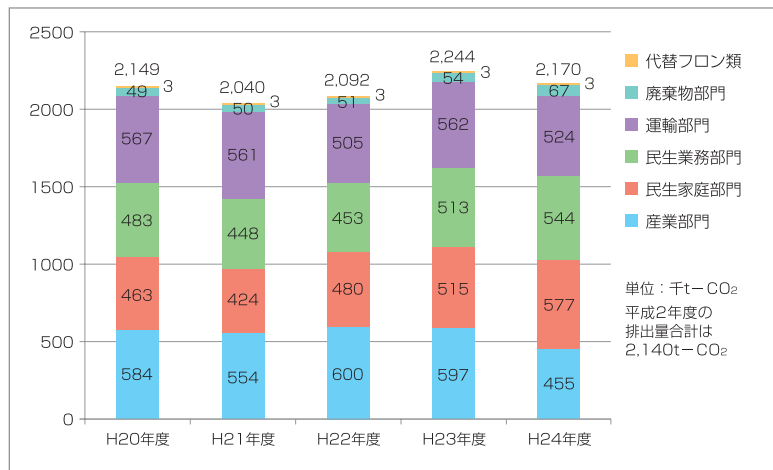
111 【PM2.5】 煤や、土壌粒子、排ガス等の大気中に存在する粒子状物質のうち、粒子径が2.5μm（ミクロン=100万分の1メートル）以下であるものを指す。肺の奥にまで達するため、呼吸器系、循環器系への影響が懸念されている

112 【アスベスト】 繊維状の鉱物であり、耐久性、耐熱性、耐薬品性等に優れ、安価であるため、建設資材等で広く用いられていた。長期間吸入すると、石綿肺、肺がん、中皮種等の疾患のリスクが増大する

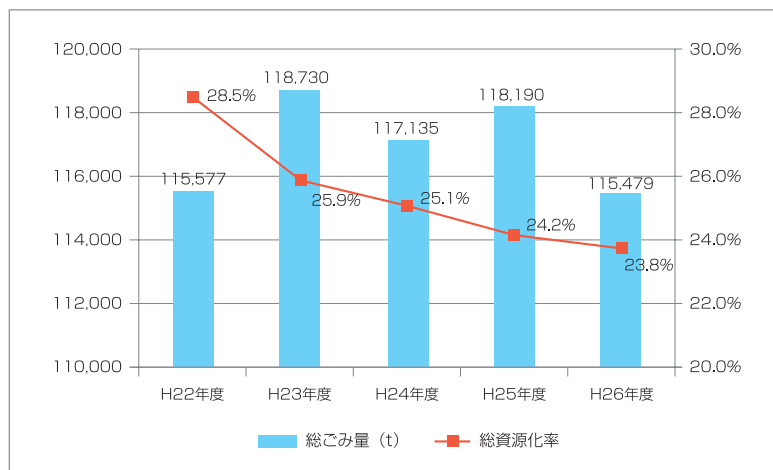
113 【揮発性有機化合物】 大気中で気体状になる有機化合物の総称。特にトリクロロエチレンやテトラクロロエチレン等は、水より比重が重く、自然界で分解されにくい性質を持つため、地下水汚染や土壌汚染の原因物質となっている

114 【スラグ】 ごみ焼却灰を灰溶融炉で溶かし、生成される溶融物のこと。溶融することで容積が大幅に減少し、重金属等が安定的な形で封じ込められる利点がある。道路の細骨材等の材料にも使うことができる

図表54 柏市の温室ガス排出量の推移 (資料) 環境政策課



図表55 総ごみ量と総資源化率の推移 (資料) 廃棄物政策課



🌀 施策の実現によって目指す市の姿 (施策の方針)

省エネルギー化や再生可能エネルギーの普及を中心に、低炭素化の取組が進み温室効果ガスの排出量が減少基調に転じ、市民生活の基盤であるごみ処理体制が持続されていて、廃棄物が適正に処理されていることで環境にやさしいまちとなっています。また、循環型社会の形成を目指し、市民や事業者が3R (ごみの発生抑制, 再使用, 再生利用) 活動に積極的に取り組んでいて、より環境意識の高いまちとなっています。

● 施策実現のため、重点的に推進する取組

1 低炭素化の推進

取組内容	市域の温室効果ガス排出量を削減するため、再生可能エネルギーの普及や省エネルギー化等低炭素化の推進を図ります。
重点事業 (実現手段)	1 省エネルギーの推進（119ページ） 2 再生可能エネルギーの普及促進（119ページ）

● その他の取組

取組名	2 大気・水質・土壌等汚染の防止 3 適正なごみ処理の維持・改善 4 ごみ（一般廃棄物）の排出抑制
-----	---

● 関連する部門計画

計画名	関連する取組
柏市環境基本計画	1・2・3・4
第二期柏市地球温暖化対策計画	1・4
柏市エコアクションプラン	1・4
柏市低炭素まちづくり計画	1

● 進捗を測る指標

取組	指標	基準値	目指す方向性	備考
1	市内の温室効果ガス 排出量	2,170千t-CO ₂ (平成24年度 排出量)	↓	

取組1の重点事業の概要

1 省エネルギーの推進

担当課	環境政策課					
事業内容	地球温暖化の進行を防ぐべく、温室効果ガス排出量を削減するため、温室効果ガス排出量の割合が大きい電力の需要を削減する省エネルギー対策を推進します。					
5年間のロードマップ	活動内容	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度
	フットパス ¹¹⁵ コース作成及びイベントの実施	1コース追加	1コース追加	1コース追加	1コース追加	1コース追加
	家庭における省エネの普及啓発	実施	実施	実施	実施	実施
	省エネ設備導入補助	50件	50件	50件	50件	50件
	緑のカーテン ¹¹⁶ 設置の啓発	講習会 100人参加	講習会 100人参加	講習会 100人参加	講習会 100人参加	講習会 100人参加
備考						

2 再生可能エネルギーの普及促進

担当課	環境政策課					
事業内容	地球温暖化の進行を防ぐべく、温室効果ガス排出量を削減するため、省エネルギー対策で電力需要を抑えながら、温室効果ガス排出量を低減させる太陽光発電等の再生可能エネルギーを普及させます。					
5年間のロードマップ	活動内容	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度
	再生可能エネルギー導入補助	100件 (世帯)	100件 (世帯)	100件 (世帯)	100件 (世帯)	100件 (世帯)
	再生可能エネルギーの公共施設への設置(土地貸し・屋根貸し含む。)	適宜実施 (公共施設の更新や再編と連動)	適宜実施 (公共施設の更新や再編と連動)	適宜実施 (公共施設の更新や再編と連動)	適宜実施 (公共施設の更新や再編と連動)	適宜実施 (公共施設の更新や再編と連動)
	多様な再生可能エネルギーの導入検討(エネルギーの面的利用を含む。)	検討 適宜実施	検討 適宜実施	検討 適宜実施	検討 適宜実施	検討 適宜実施
備考						

115 【フットパス】 森林や田園地帯、古い街並み等の地域に昔からある、ありのままの風景を楽しみながら歩くことができる小径(こみち)のこと

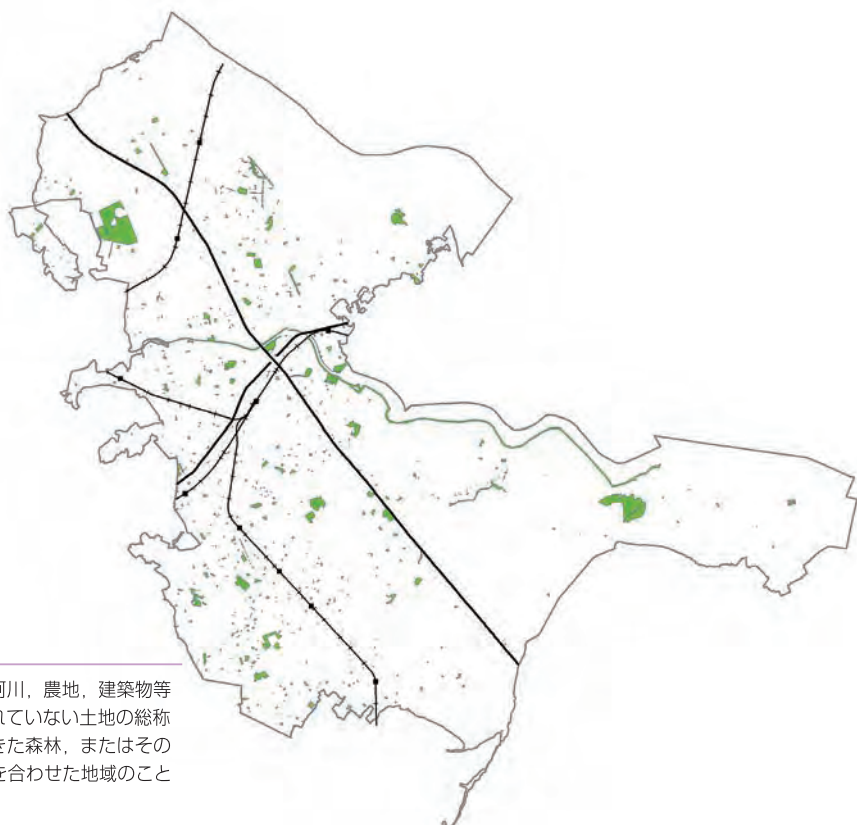
116 【緑のカーテン】 アサガオやヘチマ等のつる性の植物で建物の窓や壁を覆い、強い夏の日差しを和らげることのできる「自然のカーテン」のこと

施策 5-3 魅力あふれる都市空間の創出

◎ 当該施策の現状分析（課題把握）

- 既存の公園に目を向けてみると、少子高齢化の進展により地域住民の世代構成が変化している中で、ニーズに合わなく利用率の低下した公園等があるため、地域住民のニーズ等を踏まえた公園機能の見直しや整備を進める必要があります。
- 市では、市民一人当たりの緑のオープンスペース¹¹⁷の目標面積を10㎡（平成37年度目標）としていますが、平成27年度現在は8.68㎡となっていて、市民が憩えるスペースが不足している状態にあります。
- 民有地においては、里山¹¹⁸や農地の利用低下、高齢化等の要因により管理の手が入らなく荒れてしまった樹林地や、雑草が生い茂る低未利用地が数多く見受けられます。荒れた低未利用地は、景観や環境等の住環境の悪化につながります。これらの緑のオープンスペースの現状を踏まえ、低未利用地の対策を検討する必要があります。
- 子育て環境の充実等が求められている状況や、高齢者が一層増加する将来を踏まえると、安心して外出し過ごすことができる環境を準備することが必要となります。
- 少子高齢化や核家族化の進行、住宅の需給バランスの不一致等の社会情勢を背景として、全国的に空家件数が増加していて、地域住民の生活環境に悪影響を及ぼす等の問題となっています。柏市内の空家数についても増加しており、平成15年の13,380棟に対し、平成25年には20,130棟と約1.5倍になっています。

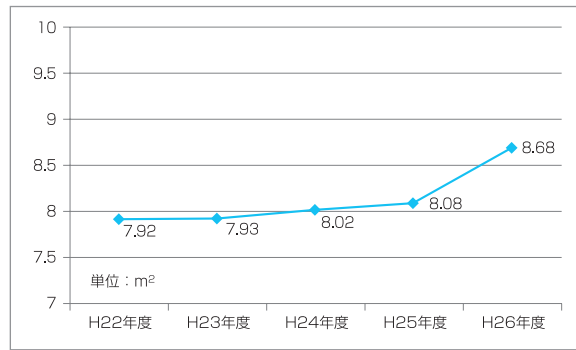
図表56 市内公園の分布（平成26年度）（資料）公園緑政課



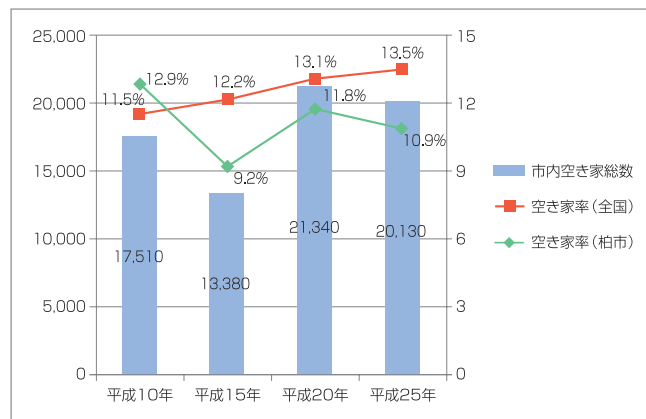
117 【オープンスペース】公園、広場、河川、農地、建築物等によって覆われていない土地の総称

118 【里山】人為的に形成、維持されてきた森林、またはその周辺の農地や用水路、草地等を合わせた地域のこと

図表57 市民一人当たりの緑のオープンスペース面積の推移 (資料) 公園緑政課



図表58 空家数及び空家率の推移 (資料) 住宅・土地統計調査



🌀 施策の実現によって目指す市の姿 (施策の方針)

市内には、市民の身近なところに都市公園や緑のオープンスペースが存在していて、行政と市民との協働の下で適切な維持管理が行われています。それらの地域に根ざした緑地は、緑としての機能だけでなく、地域住民の憩いの場、交流の場、子どもの遊び場、災害時の避難場所等多面的に活用されています。

また、まちを快適で安全に歩ける道路の整備や良好な景観づくり等の魅力ある都市空間づくりが進んでいて、すべての人々が快適にすごせる環境が形成されています。

🎯 施策実現のため、重点的に推進する取組

1 緑があり人が集まるオープンスペースの充実化

取組内容	子どもから高齢者まで幅広い世代が集い、体を動かしたり遊んだり、交流ができ、防災性の向上に寄与する良好な都市空間を創出するため、未利用地や公園等を活かしてオープンスペースの充実化を図ります。
重点事業 (実現手段)	1 ニーズや地域特性に応じた公園機能の見直し (122ページ) 2 低未利用地の活用推進 (123ページ)

2 快適で安全な住環境の整備

取組内容	子どもから高齢者まで全ての市民が安心して外出しやすることができる地域となるため、快適で安全な住環境を整備します。
重点事業(実現手段)	1 安全に歩ける空間の拡充(123ページ)

● その他の取組

取組名	3 柏らしい景観を生かした都市空間づくり
-----	----------------------

● 関連する部門計画

計画名	関連する取組
柏市緑の基本計画	1
柏市バリアフリー基本構想	2
柏市バリアフリー道路特定事業計画	2
柏市都市計画マスタープラン	1・2・3
柏市住生活基本計画	2

● 進捗を測る指標

取組	指標	基準値	目指す方向性	備考
1	市民1人あたりの緑のオープンスペースの面積	330.51ha・8.08㎡/人(平成27年3月31日現在)	↗	
2	①バリアフリーの推進に関する満足度 ②住宅・住環境の向上に関する満足度	①15.6% ②22.5%(平成26年度市民意識調査)	↗	意識調査で「満足」「どちらかといえば満足」と回答した人の割合

🍷 取組1の重点事業の概要

1 ニーズや地域特性に応じた公園機能の見直し

担当課	公園緑政課, 公園管理課					
事業内容	地域住民の世代が代わる等の理由から利用が少ない公園の活用を図るため、利用者や地域のニーズを踏まえ、公園のリニューアルや別用途での活用を図ります。					
5年間のロードマップ	活動内容	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度
	対象公園の抽出	公園評価				
	利用者との協議		施設内容の検討			
	公園リニューアルの実施			改修工事	改修工事	改修工事
備考						

2 低未利用地の活用推進

担当課	公園緑政課					
事業内容	潤いや憩いのある都市空間を創出するとともに、交流や遊び場等の機能を充実化させるため、市民と協働して未利用地の活用を推進します。					
5年間のロードマップ	活動内容	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度
	カシニワ制度登録者(土地・団体・支援)の発掘	随時	随時	随時	随時	随時
	制度のPR	年1回	年1回	年1回	年1回	年1回
	アンケート調査		実施			実施
	制度の改善見直し	随時	随時	随時	随時	随時
備考						

 取組2の重点事業の概要

1 安全に歩ける空間の拡充

担当課	道路保全課					
事業内容	市民が快適に安心して移動できるようにするため、駅周辺地区等を重点整備地区としたバリアフリー経路の整備を行います。					
5年間のロードマップ	活動内容	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度
	実施計画策定	事前調査	策定			
	計画路線整備工事			実施計画による	実施計画による	実施計画による
	上大門向中原線(01084号線)工事	実施設計	歩道改良	歩道改良		
備考						

施策 5-4 安全・円滑な交通環境の確保

◎ 当該施策の現状分析（課題把握）

- 平成27年の上野東京ラインの開業により、JR常磐線による都内へのアクセス性は大幅に向上した一方で、転落防止対策等の安全性向上が課題となっています。
- 東武アーバンパークラインでは、平成27年に柏駅においてホームドア¹¹⁹が使用開始され、安全対策が進められている一方で、単線区間によるダイヤ設定上の制限があることから、鉄道輸送力の向上が課題となっています。
- 市内各駅では、狭あいな駅前広場に起因する交通渋滞の発生や、バス等の公共交通のアクセスの不便さも課題となっていて、市内鉄道駅の利便性を向上させるため、駅の特長や地域ニーズに配慮した整備が課題となっています。
- 高齢化の進展により、自動車を運転できない方等の増加が予想される中、路線バス運行本数における地域格差が生じる等交通不便な状況が発生しており、市民の日常生活に支障を来しつつあります。また、鉄道やバス、タクシーが接続する鉄道駅等交通結節点においては、乗継場等の待合環境整備やバリアフリー化、運行情報や乗換案内等の情報提供が充実していない等、高齢者等が円滑に移動できる環境づくりが課題となっています。
- 本市の都市計画道路整備状況は37.8%と全国的に低い水準に留まっていて、生活道路への通過交通の流入、国道や一部の幹線道路の交差点に慢性的な交通渋滞等を引き起こす原因の一部となっています。

119 【ホームドア】 鉄道駅のプラットホーム縁端部に設置された転落を防止する設備のこと

図表59 都市計画道路整備率の比較（平成24年度）（資料）国土交通省

	計画延長(km)	改良延長(km)	整備率
全 国	73,179.83	45,239.48	61.8%
千 葉 県	2,678.94	1,358.70	50.7%
柏 市	150.20	55.09	36.7%

図表60 柏市の都市計画道路整備率の推移（資料）道路整備課

年 度	路線数	計画延長(m)	完成延長(m)	整備率
22	63	150,310	55,090	36.7%
23	63	150,310	55,090	36.7%
24	63	150,200	55,090	36.7%
25	63	150,200	56,377	37.5%
26	63	150,200	56,815	37.8%

🌀 施策の実現によって目指す市の姿（施策の方針）

市民が快適に利用できる交通体系や交通環境の整備が進んでいて、市内外の移動がより円滑になっています。また、安全性も高まっていて、交通渋滞や交通事故の少ないまちづくりが進んでいます。

● 施策実現のため、重点的に推進する取組

1 公共交通の利便性向上

取組内容	市内外への移動をより円滑にするため、鉄道やバスの公共交通機関の利用環境及び利便性の向上を一層促進します。
重点事業 (実現手段)	1 鉄道の利便性向上（126ページ） 2 バス交通等の利便性向上（127ページ）

● その他の取組

取組名	2 自転車利用環境の向上 3 道路網の構築 4 道路の適正な維持管理 5 交通安全の推進
-----	---

● 関連する部門計画

計画名	関連する取組
柏市総合交通計画	1・2・3・5
柏市自転車総合計画	2・5

● 進捗を測る指標

取組	指標	基準値	目指す方向性	備考
1	公共交通乗車人員	348,062人/日 (平成25年度)	↗	

🌱 取組1の重点事業の概要

1 鉄道の利便性向上

担当課	交通政策課，中心市街地整備課，北部整備課，道路整備課					
事業内容	鉄道の利便性向上を図るため，鉄道の輸送力増強や施設整備について鉄道事業者に働きかけるとともに，駅利用環境の向上を進めます。					
5年間の ロード マップ	活動内容	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度
	鉄道事業者に対する要望活動	実施	実施	実施	実施	実施
	高柳駅自由通路 ¹²⁰ 及び橋上駅舎 ¹²¹ 化の整備	工事	工事	工事 暫定供用	工事 本供用	
	高柳駅東口駅前広場整備事業		調査	実施設計	用地取得	用地取得
	北柏駅北口エスカレーター設置事業	工事			設計	工事
備考						

120 【自由通路】歩行者，自転車等が線路敷を横断するために，上空や地下等に設置された道路又は通路

121 【橋上駅舎】プラットフォームの上階部分に設置されている駅舎（駅改札口や事務室等の駅施設）のこと

2 バス交通等の利便性向上

担当課	交通政策課					
事業内容	バス交通等の利便性向上を図るため、公共交通網形成計画を策定し、バスを中心とした交通の充実を図るとともに、バス事業者との連携の下でバス利用環境の整備を進めます。					
5年間のロードマップ	活動内容	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度
	地域公共交通網形成計画の推進	策定	策定	実施	実施	実施
	バス路線の充実	実施	実施	実施	実施	実施
	バス利用環境整備	実施	実施	実施	実施	実施
備考						